

之
摘

816-1

俳諧資料カード

年代	文政十三
編者 (筆者)	東大
書名	之摘
備考	

(下垣内蔵)





京市阿賀北五丁目三番八号
 下垣内和人
 電話〇八三二七一九六四番
 〒737



五梅の咲きまの十梅子の留 蘭窩

新みよのおささよのやまの梅のふ 喇川

ふくたとりりりりりりりりりり 枕戸

おいやりぬ魚をるせりりりりりり 几邊

梅の舞月ハ難波とマスちり 更々

ちり溜る雪ハほろけりりりりりり 東桑朝

五梅十老僧達の似しや〜ん 馬宋

人の事終日ハ別ニキ一 標乃花 東口

る牛のすくしとまうやう免のふ 素羽

搦足てむとり 啼や梅乃月 一千

菊化る 畠ハ中よりよむめの新 看花

目出と片ハ此年ハ標の咲より程 梅里

まづるう 海のなやおの梅 文子

佃牛のう角ま東 ぬけハ梅のふ 雅山

手あこ心てハ足ぬく免のふ 赤摺

ふく免や雀 雲ら火 豹 朗 安津之

まの戸う 残のあさう 梅乃雪 東鵲

梅う香り 紫のたむ 藤く 翁外 林枝

新う家とまことまういし 水月上梅 已笑

昔よまぬ 戸ハあけおけ 梅のふ 老竹

白いほ 月ハあけけまう 梅のふ 花席

梅うまを 藤のやま 人乃云ふ 路丸

梅んんと せうけくまの 混くし 狸眠

佐保姫の伝きしり事梅の道 枝若
 子細きく咲きしそあは梅のふ 白二
 春まじりし人をゆくあそ 九臺
 世話くは安藤くしり梅の花 苗
 梅咲けハ歩りしり一里程 淇亭
 梅りや三味線堀と舟乃入ル 在江戸 二分
 蘇汁くしり里さうり梅の花 幸丸

雪の口くしり色くしり雪くしり那 梅士
 うらみ丁中森のまやききま遠 宇牧
 若き時の時ハ海さな垣根の形 五葉
 美鶴の言きりし草のまほふ沙 女 三笑
 うらみしりしり山くしり山の嶺 祖山
 雪み啼ききりし水子流川 古木
 雪やきし先流り乃きりし 如売
 若き時やふ白くしり人しり 藤春

松の風あつてはあな織の糸
 桑市
 糸のきき森の聲や織月
 里更
 花のきき大槩はくおほら月
 椿洲
 おほはくおや咲とつら松のき
 在江戸 虎蘭
 橋おや松の涼さの一頻り
 歩兵
 雪のききお子果乃いたる貝
 湖山
 雪のききお路の下りある日きくし

大槩挽の又控るきや雪の果
 如竹
 雪のききお解ぬ雪の情もぬ
 香雪

陰月のまつり、越の控るる坊々
 桑はく糸のききとせし

おほきや咲るるくは星のり
 おと風
 味さ乃根のききお上平のき
女
 蘭之
 花のききおききとせしり
 北貞

花はくおおむいやはたきき
 泥郎春

たのびしき後ハ 蝶よふ花を 巨涯

人信也のよき春の雪のり 一九

手よきくはるくハ 歩りむの山 季悠

こころハ 夕のしきぬさきぬるぬ 芦丈

さかすま 降よそふハ ちりぬる系 ^{六才} 彦三郎

さのふも 花をゆきくくハ 梅は ^女 三笑

二日とハ 心をぬさくハ のきとハ 曾園

縁気の 位を歩たる 梅の菊 佳陵

あまの月かしの花を 成ふ蝶 柳高

雲ふらん 夢ハ 花のの 蝶くハ 一

蝶くハ 草のり 菊より 越ハ 春 ^女

蝶くハ けりも 花の出つ入つ 梅子

初了のハ 梅ハ 常のうらみあく 暮牛

蝶くハ 梅の二十日のあふハ 海 葵亭

そくハ 花の白甲ハ ころり雨 呂舟

おとりの降とゆりつや美の雨 雪人

此る乃之種鉄るまはにまのの 吳山

歌しさい子をかきしんあむる 柳子

きしし小松の煙るまをる由 踏交

こころやあもあるしし果井ふん 壽山

葉をききんこころのししし 門権 泊船更 其鹿

川舟しきんもあまふぬえうぬ 在江戸 我々

うろくゆやうハあふしこさあふり 亀扇

り厚の聲るまふし海ふり 厚子

り厚の葉波るむふ日の白 蛙井

山吹の花のしけりやあゆり 鬼児

山吹やふま川流る二住居 土丸

山吹ハ嘆々と旅人のあふり 積小

松風の音く 籠子乃 庵の聲 在江戸 松子

かきたるゝ 尾の甲の種や 籠の土色 白夫

籠へく 足付下まゝ 籠の聲 柳島

歩りちと 山あふゝ 暮日外 木洞

寺の門かゝ 籠干ス 暮日外 文草

暮の白 や 垣のあち 籠くゝ 山 對山

蘇州の籠子にふいせりて

籠子や 婦人よ 籠くゝ 暮の水 羽白

時ハ 今花くゝ 籠り 暮水外 蘭馨

暮の中 籠くゝ 籠り 暮の水 在江戸 嘉陸

籠子にふいせりて

伊壁の 籠代より 籠り 福壽子 千亀

起くの 笑負むゝ 籠り 福壽子 女 叶

月花のおけ 籠り 福壽子 安津之

楊子の音よるる中まきの際 烏竹
 弱きや水辺道のまこくみ 烏甲
 恋指や戸をくくくハ月里 月里
 ま風やかたきくくく 雀亀
 ち争ふやあうておのうぬ 芦井
 呼子くふはくくく 楓雨
 陽花やあはくくハ水の上 白橋
 先中日もくくく 青樹
 小柳答 観之

山あきの屋つらきん 鹿古
 梅のまぬ 甘谷
 花下りよりく 斗山
 花のま 斗山
 合のあ 一淡
 巴石
 招高

花のくハ 野のくハ ありて 花のくハ 人 像 材 九

文之音

阿けたくハ 起るハ 梅の月 高シ 自明

梅ハ 一ハ 一ハ 池ハ 月 今ハ 何有

谷深ハ 一ハ 咲 梅ハ 一ハ 花 ナリ 北翠

皇ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 李青 トキ

赤ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 李 曉 キロ

牛ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 奇哉

梅ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 春江

柳ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 射玄

まハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 左圭

一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 之 柳 ウカハ

雪ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 亀毛 越ハ

月ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 伯芝 フクハ

柳ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 梅何 フクミツ

梅ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 玉可 戸出

糸ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 壺仙 ミヤヒ

玉ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 南婁 ユコ

枝ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 東畝 ウラ

夜ハ 一ハ 一ハ 一ハ 一ハ 桃屋 ト

雪垣をふりや恙あそを可小林小吃

月あはしと梅ある門庭人の同井上裡遊

大佛のくしうあやまき乃色五子奥品

雪うほす浦の勢心かすみり江戸猪海

杪栂を三度ほほは棟乃む三浦浮尺

毒のりを多し延くる柳三浦松代

おころの待有とまきとまの月一ツトウ跡山

うたふとふ光りり入らふく桂、眠郎

まき柳の勢心とか来織の家、生土

梅雪や都の海邊富士乃ま、塘芝

翁の踏くらかぶら垣乃ま、香山

鳴むとら志望をまきり鳴ま日、李蝶

織あや女ま務、まきり、里井

鳴田より望のゆき一なるう降、馬邑

まきるや枕ハまき年乃細玉お、支江

石のおく山のゆきまきりまき人、申水

雪のまきハるまきとのちかどまきハナツ楓亭

露のまきや風まき人乃惜まみす山中自友

梅乃風隙の糸情観あふツルカ五鼎

山吹十草鞋すしよかゆつく、野雀

